

商品開発から荷役まで、 多彩な活動で地域に貢献

黒島

宇津野 育己 (うつの いくみ)

昭和59年生まれ 神奈川県川崎市出身。高校卒業後、バックパッカーとして世界20ヶ国以上を旅する。

地域の方々と大名タケノコの皮むき作業。
タオル鉢巻が著者。



◆簡単には帰れない場所で覚悟を決める

私が地域おこし協力隊として活動した黒島は、竹島、硫黄島とともに鹿児島県三島村にあります。竹島、硫黄島はそれぞれ一集落、黒島には大里集落と片泊集落かたしまりの二集落があります。私の赴任した片泊集落は村営船「フェリーみしま」で鹿児島港から約六時間かかり、三島四集落の中でもっとも人口の少ない集落です。

そんな三島村の黒島で地域おこし協力隊として活動することになったきっかけは、あるNPOの活動を新聞で知ったことでした。それは地域おこし協力隊とおなじように、都市近郊に住む若者を地方自治体に派遣し、その地域の行事などでスタッフとして活動してもらう代わりに、住居や多少の生活費を支給するといったものでした。インターネットで詳しいことを調べるうちに、「地域おこし協力隊」という事業があることを知り、応募することにしました。

私が応募した当時、地域おこし協力隊はドラマなどで取り上げられる前でしたし、まだ募集している地域もいまだ多くなく、候補は二、三ヶ所でした。その中から三島村を選んだわけですが、正直それほどしつかりした理由があったわけではありません。具体的にどのような活動をするのかもわからなかったですし、三島村についてはまったく知りませんでした。ただ、三島村のほかに募集している地

域は、私の出身地である神奈川県川崎市からわりあい近く、どうせ行くなら簡単には帰れない場所の方が覚悟が決まるのではないかと思いました。また、一五〇万人の人がいる川崎市にくらべ、人口が極端に少ない三島村の環境や生活などに興味があったこと、離島で生活するチャンスはおそらくこの機会を逃したらほとんどないだろうと思ったことなどが、三島村の地域おこし協力隊に応募した理由です。

◆なるようになる、なるようにしかならない

私は高校卒業後、ワーキングホリデーを利用してオーストラリアで生活をしました。また学生時代から地域おこし協力隊として島に来るまでの間、兄弟や友人と、ときには一人で海外をバックパッカーのようなかたちで二〇ヶ国以上訪れていたもので、知らない土地に行くことに対する不安はほとんどありませんでした。ただ実際どのようなことをするのか、また島のために自分に何ができるだろうか、といった不安はやはりあったと思います。しかし三島村に協力隊として行くことが決まってから実際に黒島に派遣されるまで、村のことや島のことについては、あえて調べませんでした。余計な先入観を持ちたくなかったこともありませんが、実際に現地で生活をして、自分の目で見て感じてみないことには、ほんとうのことはわからないと考えるからです。それは、私がこれまでいろいろな国々をまわっ

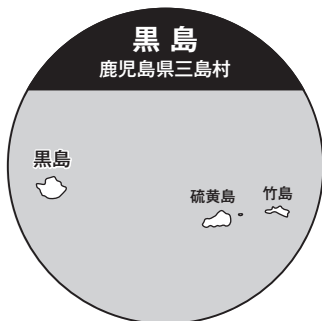
て得た経験のひとつだと思えます。それに、協力隊になるまで地域おこしのような活動をしたことはまったくありませんでしたし、特別な技術や免許を持っているわけでもありませんから、調べたところであまり意味もないかなと……。

「なるようになるし、なるようにしかならない」

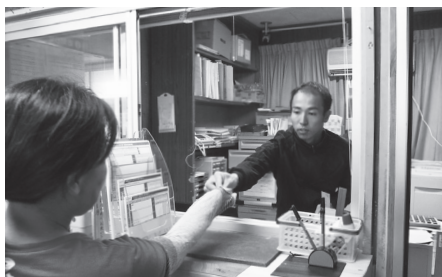
よくも悪くもそういう性格でもあり、誤解を恐れずにいえばとりあえず興味はあるし行ってしまえ、行けばなんともなるだろう、という気持ちで地域おこし協力隊に応募したところもあります。

◆だれかがやらなくてはならないことだから

地域おこし協力隊として、三年間さまざまな活動に取り組みました。具体的には、黒島でつくられている「黒島みかん」を活用したシフォンケーキなどの生産・販売を行っている特産品開発グループ内での作業や、島内限定販売の焼酎「みしま村」の原料として黒島で生産しているサツマイモ



三島村は竹島、硫黄島、黒島の3つの島から構成され、人口400人ほどの鹿児島県で最も小さな自治体。



村の簡易郵便局窓口業務の手伝いをする筆者。

の収穫、村の基幹産業である子牛の生産をしている畜産農家のお手伝いなど、トレッキングツアーや秋に黒島で行われるトレイルランで訪れた観光客に島を案内することもありました。そのほかにも村で行われるいろいろなイベントの運営の手伝いや、地域で行われる行事への参加もありました。

また、各集落には青年会があり、毎年夏に行われるヨットレース「みしまCUP」には、各青年会単位で露店を出店します。私が所属する片泊の青年会では、黒島産の大名タケノコを使った天ぶらや、島で「ビンゲ」と呼ばれる魚のから揚げなどを販売するのですが、そこで利用するタケノコの収穫作業やビンゲ釣りなどは、土日を利用した青年会活動で行いました。

このような地域おこしに直接関係するような仕事はもちろんです。それ以外にも島内の伐採作業や台風時の集落の見まわり、村営船「フェリーみしま」の港への入出港時の荷役作業など島ならではの活動もありました。保育園での手伝い、島のお年寄りの作



フェリーみしま接岸時、網取り業務をする筆者。

業の手伝いといった小さな活動もふくめれば、ここには書ききれないほです。

片泊集落は現在人口七〇人ほどですが、私が地域おこし協力隊として活動していた期間には人口が四〇人ほどしかいない時期もありました。人が少なくなってももちろん船は来ますし、観光客や行事が減るわけではありません。当然、これまではやらなくてもよかったことも必要であれば、だれかがやらなくてはならない。地域おこし協力隊の私も、本来の趣旨とはちがうことや、自分が考えてもいなかったようなことをしたことが、いくどかあったと思います。

◆すぐにみえる結果より、長く携わりつづけた

三島村は、村全体でも四〇〇人に満たない小さな自治体。

受け入れ側からみた隊員の活動

●島の現状

三島村は、鹿児島市から南西へ100～150kmの洋上に東西に点在する竹島、硫黄島、黒島の三つの島からなり、東南に種子島、屋久島が横たわり、南にトカラ列島、西に草垣群島を望む位置にある。

交通手段はもちろん船であるが、採算のとれない極端な赤字航路のため、民間による経営がなされていないことから、村営による船舶交通事業を行ってきた。今回ご紹介する黒島は、硫黄島から約1時間で到着する村最大の島で、周囲15.2km、面積15.3km²、標高622mの樽岳を最高峰に、500m級の日山々がそびえたち、自然が豊かである。平成23年7月には、「薩摩黒島の森林植物群落」として国の天然記念物指定を受けている。東西に大里と片泊の2つの集落があり、トレッキングなどの観光客はあるものの、高齢化が進み人口減少による過疎に悩む島である。

●隊員の活躍

本村は、平成22年に地域おこし協力隊員の導入を決定し、同2月に宇津野育己さんを黒島片泊に派遣した。宇津野さんは、神奈川県からの隊員で、いまでも印象に残っているのが「都心に生まれると田舎の魅力に気がつかないので、魅力を伝える側に立ちたい」という強い思いを持っていたことだ。

隊員の活動の主な取り組みは、黒島大里の子育て広場での保育の補助、大名タケノコを使った「食べるラー油」の試作、村道伐採の手伝い、観光客への対応補助、村出張所事務補助、村営船フェリーみしまの離接岸時のロープの綱取りなど。いまでは地域住民には欠かせない存在になっている。

本人のやりたいことも多々あると思うが、宇津野さんは地域のことをまず優先し、自分が地域に貢献できるものは何かを常に考え行動している。私は、地域おこし協力隊員の実績とは、物として見えるものではなくとも、地域住民から必要とされ、信頼され、ともに島で生活していく絆を深めていくことだと思っている。宇津野さんはそれができているので、今後も地域の一人として村の活性化のために努力してもらい、定住につながればと願っている。

●これからへ向けて

最後に、脆弱な財政状況の本村ではあるが、地域おこし協力隊の派遣については、優先的に実施している事業である。村の地域おこしのための協力隊派遣は今後も継続して実施していく予定ではあるが、現在の財源措置では十分ではないと考えるため、離島における人口増加対策の面からも普通交付税の算定基礎数値に算入してもらうように国に要望していきたいと考えている。

(鹿児島県三島村定住促進課長 宮田雄次)

三島四集落に分かれていますし、もちろん離島なのでほかの地域と陸続きでもありません。たしかに自然豊かで島という特徴もあるかもしれませんが、それはなにも三島村に限ったことではありません。三年間の活動期間でひとつのことに特化して活動している地域おこし協力隊の方もいるかと思えます。たとえば観光客やイターン、Uターンが増えたなど具体的な結果の出る活動をされている方々もいるでしょう。本来、地域おこし協力隊はそうあるべきだと思いますし、私自身、任期中にそういった活動ができなかったことは、今後の課題だと感じています。しかし、いろいろな活動をしたからこそ得た経験や、そこから学んだこと

が数多くあったのも事実です。私は、三年間の地域おこし協力隊の活動期間を終え、平成二五年度から集落支援員という制度を利用して、現在も黒島の片泊で生活を続けています。集落支援員として、これまでとおなじような活動を続けていますが、最近では集落の中学生の部活動のコーチを引き受けるなど地域おこし協力隊の時とは少し違う角度から地域に関わることも増えてきました。集落支援員の期間は残り一年半ほど。現在、期間終了後どのようなかたちで村や地域に携われるのか、これまでの経験や学んだことをどのように活かせるのかを考え、日々活動しています。

